

厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）  
分担研究報告書

将来に亘って持続可能ながん情報提供と相談支援の体制の確立に関する研究

研究分担者：中島 信久 琉球大学医学部附属病院 地域医療部 診療教授

研究要旨

本研究の目的は緩和医療領域からみた患者・家族向け情報の作成ならびに提供体制を構築することである。この目的のもとに、作成すべき情報の内容、その提供体制の持続可能性などに関する課題の整理や連携の方法などについて検討する。

A. 研究目的

緩和医療領域における刊行物をもとに患者・家族向け情報の作成ならびに提供を継続的かつ組織横断的に行える体制を構築する。

B. 研究方法

分担研究者である中島信久が委員長を務める日本緩和医療学会ガイドライン統括委員会のサポートのもとに、同学会が刊行している診療ガイドライン、患者・家族向けガイド、その他の患者・家族・一般向け資料を選出し、患者・家族向けの継続的な情報提供源となるかについて調査した。今後、他学会・団体と協働して患者・家族向けコンテンツの作成を行っていくための方法について上記委員会の会議において検討した。

C. 研究結果

6つの診療ガイドライン、1つの臨床エビデンス集、1つの患者・家族向けガイドが抽出された。過去2年以内に刊行したもの2つ以外は定期的に改訂が行われていた。また、患者・家族・一般向け資料として日本緩和医療学会が刊行したパンフレットが1件抽出された。

今後、他学会・団体と協働して患者・家族向

けコンテンツを作成するための具体的な方策について継続的に討議することを決定した。

D. 考察

ガイドライン、ガイド、パンフレットが扱う項目と他学会・団体が刊行する同様の資料との類似性や相違点を調査した。これをもとに患者・家族の抱える疑問に答えるための資料の整理を行うことを試みた。これらの刊行物の改訂、普及啓発の方法を模索した。関連する学会・学術団体と上記の目的で連携できるような組織の構築に向けての検討を開始した。全がん協などの取り組みの内容を共有し、各団体との協働を含めた具体的な活動についての検討を継続的に行っている。

E. 結論

研究により得られた成果の今後の活用・提供：他学会・団体と協働して緩和医療関連の患者・家族向けコンテンツの作成すること、次いでそれらのコンテンツに患者・家族が容易にアクセスできるようにすること、定期的な改訂を行っていく体制づくりにつなげていく予定である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表 1. 論文発表 2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

・患者さんと家族のためのがんの痛み治療  
ガイド増補版：2017年6月刊行、日本緩和  
医療学会編集、編集責任者；中島信久（ガイ  
ドライン統括委員会委員長）

・がん患者の消化器症状の緩和に関するガ  
イドライン 2017年版：2017年12月刊行、  
日本緩和医療学会編集、編集責任者；中島信  
久（ガイドライン統括委員会委員長）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含  
む）

1. 特許取得 2. 実用新案登録 3. その他  
なし